

光輪

第138号
〒950-2022 新潟市西区小針4丁目5番18号
真宗仏光寺派 瑞林寺 光輪会
電話 (025) 266-1846・FAX (025) 266-1907
瑞林寺ホームページ http://www.zuirinji.com

令和4年度 光輪会費の納入はお済でしょうか。6月より新年度となります。



令和5年 彼岸法要

3月18日(土) 午後1時半より

本山差向布教 無量寿廟法要 しんらんさまの日

布教使 京都市 大善院 佐々木 正祥 使

写真：本堂欄間（中央）中尊前（右下）祖師前（左下）御代前

瑞林寺の由来と歩み



曹洞宗 昌興寺住職 石田哲彌師

妙徳院の教奇な生涯 2

妙徳院は龍隠院においては日々、修行僧とともに坐禪修行に励む傍ら、お茶や生け花、そして和歌や書道を徹底的に教えこまれました。普通の女性ではどうい経験することのできない多くの文化的素養を身につけることができました。しかし、次第に身辺に危険が迫ってきたことから、さらに強い特権を持った日蓮宗の総本山、本成寺(三宅)に密かに移りました。しかし、やがて美貌ますます冴えてきたことから、寺を出て結婚、ひっそりと身を隠すように暮らしてました。

慶長3年(1598)上杉家、(上杉景勝)は会津に移封となりました。長い間、逃亡生活を余儀なくされてきた妙徳院にもようやく自由が訪れました。しかし、すでに27歳。華やかな青春時代は終わっていました。越後を支配した堀家が入り、越後を支配しました。ところが、豊臣秀吉が亡くなると、徳川家康と石田三成との関係が悪化となり、その前哨戦として越後に起こったのが上杉遺民一揆でした。こうしたさくさくの中で妙徳院は堀直寄に見いだされました。身は質素で、しかも常に身を隠し、人前からは逃げるようにしていましたが、その身動きどこか普通の女生と違ふ、気品に満ちた姿でした。藩主の直寄は彼女を呼び寄せ、身形を整えさせたところ、まるで雪の下に長年忍びに忍んでいた花が一気に綻び、咲き誇るかのような、眩しいものでした。



堀直寄の墓 (五泉市 英林寺)

素性を聞くと、なんと名門、上杉謙信の育ての親で、軍師として有名な本庄実乃の孫、堀尾城主、杉謙信の乱で総大将として活躍した本庄清七郎の娘であるという。しかも逃亡中でありながらも、7歳の幼い頃から禪寺において他の修行僧とともに暮らし、作務に専念、厳しい行儀作法と高い教養を教えられてきたとのことでした。さつそく坂戸城に連れ帰るや、奥女中に指導者として彼女を迎えたのでした。すでに時代は荒々しい戦国の世から、礼法の重きをおく時代へと変化していったので、妙徳院のように礼儀作法に秀で、高い教養の持ち主は奥女中の指導者として、願ったり叶ったりの存在でした。

淤泥華

- 表紙の写真は本堂の中央にある欄間です。明治32年に本堂が焼けてその時、火事に気付いた門徒さんがいち早く欄間を外へ持ち出して下さいました。
- 現在の本堂は大正9年に建立され、欄間は火事の時には壊されたものをそのまま使っておりません。前の本堂は江戸時代のもので、それぞれ天女さんが楽器を奏でておられます。極楽浄土の微妙なる音が聞こえてくるようですよ。
- 春彼岸には参道の梅もほころび、春の日差しに鳥たちがさえずり始めます。
- 『阿弥陀経』には白鶴、孔雀、鸚鵡、舍利、迦陵頻伽、共命の鳥たちが、和雅の音を出し皆様をお呼びしています。
- どうぞ春の彼岸には、春の日差しと極楽の鳥たち、そして天女の奏でる雅楽に迎えられ、仏法聴聞に本堂へ足を運んでください。

近所の桜が、かわらす春の準備をしています。

本山差向布教 布教使ご紹介

佐々木 正祥 使

文明14年(1482)の一派分裂の際、本山を護られた六院家の一つ大善院(南坊)御住職。

佐々木師のお寺は、境内に「お寺ハウス」というカフェをオープンし、催し物や展覧会などいろいろな方が集まってこられるお寺です。仏教関係の新聞に漫画でコラム連載されたり、三味線や横笛など奏でられ、また本山の境内で地域の盆踊りを開くなど多彩に活動されています。コロナで3年越しの新潟での差向け布教待ち遠しい限りです。

佐々木正祥 著 『マンガで仏教111キーワード』(興山舎)

2月 何しても空しくなる

1月 無限の可能性を信じる

今月の指示板 (1月・2月・3月)

マラソンでデット・ポイントというのがあります。走り始めて、呼吸が苦しくなり、足も鉛のように重たく感じられる。しかしあるポイントを過ぎると急に楽になる。それは体が順応してくるから。人生も行き詰まりや壁にぶつかるとはありますが、あなたに可能性は必ずあると信じてくださるのが阿弥陀さまです。

3月 悲しみは命の尊厳の道程

虚しさは蓋をするのではなく、また消すこともできないのが人間です。逆に虚しさ無くしてしまつては仏法聴聞は始まりません。虚しさを受け入れていく道、それが浄土真宗です。虚しさを信頼していけば何も恐るる必要はありません。だから「念仏者は無碍の一道なり」といわれるのです。

命が尊いと言われるても、その尊さをどう感じているかわかりません。しかし身近な人の死、かけがえないものを失った時、はじめてそのことを重さを感じます。悲しみが深ければ深いほど、心が痛んだ分、命の尊さを知ることになるのでしょう。

次回 4月2日(日) 朝7時 瑞林寺本堂集合

読経&ヨガ・法話・薬膳弁当とお話

来年度2023年 4/2 6/4 9/3 12/10 全日程 日曜日 朝7時~

参加費 5,500円

当院 釋海真 大谷大学 卒業

この3月、大谷大学文学部真宗学科を、皆様のご協力お陰様をもちまして無事卒業することができました。今後は本山にてしばらく修行・勉強をしてから瑞林寺に戻りたいと申しております。

あらためて詳細は御報告、御礼をさせていただきます。誠にありがとうございました。

ご本山にて

「差向布教」この機会をのがさず、是非ご聴聞ください。

春 彼岸法話 住職 廣澤晃隆

おんりえど こんくじょうど 厭離穢土 欣求浄土

今年のNHKの大河ドラマは徳川家康が主人公です。「厭離穢土 欣求浄土」の言葉を大切にされ、徳川軍の旗印となりました。

ドラマの中では桶狭間の戦いで逃げ込んだ、菩提寺の大樹寺を守るために家康は一人墓前で自害を決意します。

家康はこの言葉を見ながら「穢れたこの世を離れ、極楽浄土へ往くのだ」と理解します。しかしすぐに幼い頃を回想し、「この世は地獄、俺は地獄を生きて抜く、弱ければ死ぬだけ」という信長の言葉を思い出して自害を止めます。さらにその場に居合わせた榊原康政に「穢れたこの世をこそ浄土にする」と目を指せ」と登壇上人から教わりました。

した家康に論じます。この身はこの世に居すれども心は浄土に帰するなり (詠み人知らず)

この身は苦しみ悩みの世界に置かれていても、心は常に浄土と共に在る。それは浄土という世界を逃げ場にするのではなく、一人一人が浄土を心に抱き、この世を生きて抜く力を頂く。それが仏法聴聞です。

人はこの現実世界を穢土としか捉えることができません。それは自分のものさし、色眼鏡でしかこの世を見ることのできなから。それを親鸞聖人は邪見・驕慢の悪業生とらえました。邪見とは邪な見方、見解、思考です。驕慢とは驕りたかぶりとして慢心。そういう偏った見方、思考、心持ちでしかこの世を穢土として捉えることができない、それを悪業生と。しかし、そう成らざるをえない我が身です。他人事ではないそれが自分の姿であるのだ。

「欣求浄土」とは、浄土の眼でこの現実世界を眺めてみる。すると穢土と思つて見ていた世界が、苦悩と悲しみに満ちた現実となつて見えてくる。

「厭離穢土」とは、穢土を捨て去り離れることではなく、この現実の社会を厭い悲しむこと。有るとか無いとか、言つた言わないとか、自分の見解で物事を判断したり、都合の悪いものは切り捨てていく、そういう人間の眼を打ち砕くのが浄土の眼です。そして我々一人ひとりが慈悲の心をもってこの世を生きていく。それはまた、苦悩の衆生を拱め取つて捨てない阿弥陀佛の心です。

軍勢力や権力、お金の力で人を支配するのではなく、浄土の教えが中心となって民衆を支え、生きる力となる。人間の本来在るべき姿を「厭離穢土 欣求浄土」を旗印に、家康は民を中心とした国家をつくり、天下太平を願われ立ち上がったのでしよう。

新米 坊さん日記 12

お寺に入り、はや6年になりましたが、はじめの大谷専修学院、本山夏安居、そして今は第12次となる推進員におかけをもちつて参加させていたたいております。浄土真宗を学ぶにあたり、これら全てが同様の学び方をします。寝食をともにし、同期と語り合う日々を過ごすのです。

この生活で学んでいきますと、他者との関わりが重要な意味を持ちはじめます。先生からの教授ばかりでなく、私の問いや他者の問いも語り合い、問題を共有し、ともに悩むのです。難題になれば先生の解答を求めるとが常ですが、先生は最小限の助言にとどまり、判断を求めるとはありません。

浄土真宗の教えは自己解決、判断を求めるとはありません。断るに申しますと、我執にとられ逆になる解決など、お見通し。私の善し悪しでしかないことと思いつくられる教養でもありません。

お寺に関わる前までの自分が、どれほどまでに全てを己の価値観で分別していたか、映し出される私の姿が「照らされる」と表現されます。そして同期は生涯の友となります。

(山崎)

NHK 大河ドラマ「どうする家康」 日曜よる8:00~